

平成30年度 第1回 新見市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成30年10月16日(火)
午後4時開会 午後4時50分閉会

- 2 場 所 新見市役所南庁舎 1階 1C会議室

- 3 出席構成員
市 長 池 田 一 二 三
教育長 城井田 二 郎
教育長職務代理者 小 野 貴美江
教育委員 住 本 克 彦
教育委員 松 井 健 一

- 4 欠席者
教育委員 溝 尾 妙 子

- 5 説明のために出席した職員
教育部長 安 藤 暢 重
企画政策課長 小 林 保
教育総務課長 高 瀬 広 視
学校教育課長 上 田 博 文
生涯学習課長 田 邊 純 孝
教育総務課主幹 三 村 真 司
企画政策課主幹 西 田 大 祐

1 開 会

2 市長挨拶

3 議 事

地域資源・人材を活かした新見らしい教育について
～「塩から子」という人づくり～

(新見市総合教育会議運営要綱第3条に基づき、市長が進行)

池田市長

本日は、『地域資源・人材を活かした新見らしい教育について～「塩から子」という人づくり』というテーマで、委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。それでは、まず、本日のテーマの概要について事務局より説明をお願いしますが、その前に少し私の方からお話しをさせていただきたいと思います。

本市の教育目標は皆さんご存じのように、ふるさとを愛し、世界で活躍するたくましい子ども、塩から子の育成でございます。何事にも積極的に取り組み、たくましく生きることができる子どものことです。この塩から子を育てるために、平成27年度より主要事業として「にいみ塩から子育成事業」を実施しています。本市の自然や産業を活かした豊かな体験活動を通して、やり抜く力を持った子どもを育てること、地域の子どもは地域で育てるという考えのもと、多くの方々がボランティアスタッフとして支援しようとする意識の醸成や仕組みづくりを推進すること、市内各地へ出かけて、職業体験や見学、地域の人のお話を聞く機会を設けるなど、本市について再発見できるよう工夫することなど、こういったテーマに基づいて取組を実施しているところです。そういうことがふるさと新見への愛着を高めることにも繋がっているようにも思っています。

それではこのテーマについて、事務局より説明をお願いします。

事務局

塩から子育成事業の概要を説明します。

先ほど市長も言われましたように、何事にも積極的に取り組み、たくましく生きることができる子どもの育成を目指しまして、「地域の子どもは地域で育てる」というスローガンのもとに、将来本市で活躍する人材育成に向けて取り組むものです。同時に高校生や大学生をはじめとし、

地元の各種団体から募集したボランティアスタッフの意識の醸成を図るということで、その目的や指導方法を互いに共有して、子ども達が社会で生き抜く力を養うということを目的としています。強いて言えば、夢と自信を持ち、可能性に挑戦するために必要な力の育成を行っています。

事業内容としては、市内小中学生を対象に、地域の自然や産業を活かした体験活動を実施することで、地域で事業展開を図る地域バージョンと、各学校、コミュニティスクールで実施する学校区バージョンの2本立てで構成しており、この両面で子どもの育成を図るものです。内容は新見市の自然、産業、文化、歴史を活かした体験活動、それにふるさと学習ということが根底に加わります。総合戦略の分類としては、「定住人口の増加に向けた取組」と「地域資源を活かした交流の活性化と産業の振興」を図っていこうというものです。

形態としては、実行委員会組織を構成してもらい、そこが行っていくものですが、元々ある団体が地元で実行委員会を組織して、そこへ委託業務として事業実施をしてもらうことになっています。事業については毎年500万円、そのうち地方創生推進国庫交付金が2分の1あたるということで事業展開を図っています。

池田市長

次に、塩から子育て事業についての考察レポートがありますが、作成に関わられました住本委員から、ご説明や塩から子育て事業についての講評などいただければと思います。

住本委員

結論から言って、文部科学省が言っている「生き抜く力」、市長がおっしゃった「たくましい人づくり」、まさに国が言っている生き抜く力は、塩から子育て事業が目指すものと完全に一致しています。参加した子ども達のアンケートから見て、約8割が「将来新見に住みたい」と答えている。この事業こそ、今後継続、ますます発展すべき事業だというのが結論です。

キーワードとして挙げておりましたが「体験活動」、これこそが中核にあるもので、体験活動を通して子ども達はこの生き抜く力を身につけるといことです。生き抜く力は、知・徳・体のバランスのとれた力で、以前は「生きる力」と言っていたものを「生き抜く力」と言って、国が強調しております。生き抜く力の要素として、レジリエンス、グリットで、これが今注目されているものです。レジリエンスとは「回復力」、グ

リットは「やり抜く力」、この2つとも生き抜く力の要素です。子ども達が生き抜く力を育むためには、自然や人に触れる実際の体験が必要であるということがポイントになります。

実際の塩から子育成事業のサマーバージョンでは、林業、農業、畜産業、鉱業の現場を見学したり体験したりする行程があり、これはキャリア教育で、非常に素晴らしいことです。さらに、「夢の教室」といって、夢を知り、語る体験を取り入れており、これはウインターバージョンにも入っているのですが、夢とか希望を子ども達が実感、イメージすれば、命を大切にできるという研究結果もあり、ものすごく大事なことです。

塩から子育成事業に参加した子ども達は、楽しく体験活動に参加する中で、「主体性」や「協働力」、「がまん強さ」、「挑戦心」等を高められたと実感するとともに、地域の特性や良さについても新たな発見をしています。この点では、地域への愛着心を育て、地方創生を活性化させる方途としても重要な事業であったと考えられます。

本当に素晴らしい事業ですので、今後ますます取組が発展されることを大いに希望しますし、学生も良い勉強をさせていただいたと実感しています。

池田市長

ただ今、住本委員から素晴らしいというお墨付きをいただきました。ご発言の中にも文部科学省の基本的な考え方に合致しているとお聞きしました。これを受けて、委員の皆様からご意見等を伺いたいと思います。

小野教育長
職務代理者

新見市はICT、それから英語特区をとって、先進的に色々なことに取り組んできたんですが、今やどこの小学校、中学校も取り組んでいて、新見だけ特別ということではなくなっています。IT化がどんどん進んでいくと、AIの発達によって10年後には大きく職業も変わるだろうし、教育のあり方も変わるんだろうと思います。例えば、英会話ができなくても、今はスマホ1つあれば、通訳してくれる、話もしてくれるということになると、必ずしも正解を出す事業というものも必要なくなると思います。それがなくなるからこそ、今度は予期せぬ出来事に遭遇したときに、いかにその状況を突破できるかという力がなくて、その力が必要になってくるということに関しては、生き抜く力、この塩から子育成事業が一番役に立つのではと思っています。

ただ、小学生の参加者が多くて、中学生が非常に少ないのが残念です。新見に帰ってきてもらおうと思うと、中学生や高校生での意識の醸成が必要だと思うので、中学生の方にも参加してもらえれば良いと思います。そして大人がなるべく手を出さない、自分たちで何とか切り開いていくということが大事だと思います。そういった中でこの塩から子育て事業は続いていけば良いかなと思っています。

松井委員

新見市のコミュニティ・スクール（CS）、いわゆる学校運営協議会、そして資料の新聞記事の大佐版塩から子育て事業に、新見の教育の特徴、素晴らしさの2つが集約されていると思います。全ての小学校、中学校に学校運営協議会が置かれて、地域との協力のもとに学校運営を行おうという事業がスタートしています。市全体バージョンの塩から子育て事業とともに、各校区あるいは学校単位での塩から子育て事業が始まったということ、この2つは新見市の教育の素晴らしい点だと思いますし、他市にも誇れる点だと思います。

特に大佐版の塩から子育て事業については、新聞記事を見ますと、大人の方がそれまでであることは知っていたけど、本当にそのことは地域の価値として認められるものなんだろうかという事に、無自覚であったのではないだろうかと思います。それを自覚されたというのは非常に素晴らしい事だと思います。多分この記事を書いた記者の方はそういうことを言っておられるんだろうと思います。大人が自分の地域を誇りに思うことができれば、子ども達にも当然伝わるし、子ども達は実際にこの体験活動の中で、自分たちの地域の素晴らしさにも目覚めたんだろうと思います。そうやって世代を通じて、自分の住んでいる地域の良さを自覚できれば、これからの新見にとっての素晴らしい財産になると思います。実際にこの事業を主催された方とお話しする機会がありましたが、これは学校運営協議会が主催だけど、学校が主導ではなくて、地元の民間主導だからこういうことができたんだと伺いました。そういうところがこれからの学校教育を多彩にしていく、これまでの学校教育の枠からさらに広がって教育内容を多彩にしていく1つの大きな可能性を示していると感じています。これから大事なことは、一過性のイベントではなく、年間を通じて何らかの形でこういうことをやろうと、地域の人々と学校とが話し合っ、一貫した塩から子育て事業として、平素から話し合いをしたり計画を立てたりして事業を進めていくということが重要だと思います。そのためには学校運営協議会という組織、そしてそ

こでの熟議がきちんと進められていくことが大事だろうと実感しました。

また、本市は小規模な学校が多いです。そういう意味ではそこに住んでいる保護者の数、あるいは生徒の規模との関連から、今は各学校単位での学校運営協議会ですが、複数校あるいは中学校区を対象としたような学校運営協議会に発展させていくことを考えていかなければいけないとも、将来的なこととして思います。そして、各校区で体験した子ども達が、体験を持ち寄って、市全体バージョンへ参加して、普段は交流の無い他の校区の生徒達と交流をする。そういう活動ができれば良いと思います。そのためには色んな人的な支援、経済的な支援が必要だと思いますが、新見の教育の利点や先進性に今こそ投資すべきと実感しています。

城井田教育長

中央でやっている塩から子育成事業について、例えば社会教育関係の活動をされてきた方が何を危惧されているかという、自分たちがやってきたキャンプや野外活動が失われようとしている、繋がらなくなってきつつある、そういった団体や活動拠点がなくなってきているということです。その結果、社会教育で培ってきたものを担う人が減っているのですが、この塩から子育成事業によって、次の人たちへ渡すことができる機会をつくってもらっている、それが非常に嬉しいとお聞きをしたことがあります。この塩から子育成事業というのは、単に子ども達に色々な体験活動をさせているというだけでなく、広いものを地域につくろうとしている1つの動きではないかと思っています。ですから地域へ是非広げて欲しいと思っています。CS発出で、とにかく地域を知ることをお願いをして、少しずつそれをやりかけたところなので、是非これは計画的に継続的にやるということは欠かせないと思っています。

もう1つ、教育委員会の中でもご意見があったんですが、せっかくある新見の良さをもっと外へ宣伝できないのかと、ご意見をいただいたことがあります。行政だけではなかなか難しいことがあります。民間の中にはそういった活動をしているところは新見の中にはあります。そういう民間の方達と協働しながら、地域の子供達と外の子供達が関わりを持てるように、その時に行政や教育関係者や地域の方達がお手伝いしたりして広げることが可能なのではないかと思います。

この事業を年間を通して計画的に地域の方達とやっていこうとすると、今学校でやっていること、先生達が子ども達の発達・成長のために

計画的にやっていることを改めて見直すことが必要だと思っています。学校関係者がみんなこの事業をやろうと思って動きかけているわけではないですけど、少しずつこのことが地域の中に定着しながら、CSの中でも定着しながら動いていくことによって、学校自体が自分たちの教育活動を見直す、1つのきっかけにもなるのではないかと期待しています。

池田市長

教育委員会としては、地域の方の声、関わった方々の声は把握していますか。ボランティアスタッフのご意見、学校運営協議会で関わった方々の思いなどの把握はどうなっていますか。

事務局

今回は、中央バージョンが台風の関係で中止になりました。結果大佐バージョンのみの実施となりました。実施にあたり多少苦勞されたというのはありました。もう少し人手が足りないという声もあります。ただ、子どもに対する熱意は非常に高く、子ども達が変化を起こしたことについては非常に高い評価があります。先ほども話に出ましたが、大人の方がそこに気付いていなかったということのを再認識したということも出ていて、地域としてまだまだ子ども達に教えなきゃいけないことがわかってきたと思います。地域バージョンはそういう意味で非常に有意義だったと思います。子ども達だけでなく、指導者の方もそういう思いを持たれたという事は、ちょっと違う角度から指導していくべきではないのかということも言われていますので、多角的な活動を展開できるのではないかと感じています。

学校運営協議会の中で、学校版塩から子事業というのは昨年度から始まって、実績数で言えば昨年度が5つだったのが、今年度10、11あたりに増えてきています。内容についても基本的には自分の地域の自然、産業、人的な資源を活用しての体験活動ということから、ふるさと学習を含めて、何がこの地域でできるのかという協議は、協議会の中で常にお願ひしています。ただし、実施できる、できないはそれぞれの学校運営協議会の中で、総合的な学習の時間との関連性を踏まえながら話を進めていると思います。地域の方は学校に様々な思いを持っておられる中で、自分たちの子ども達が成長する姿が見えること、CSの方々が関わっていけるという充実した認識は持たれていると感じています。

住本委員

地域で子どもを育てるということは大きな1つの柱だと思います。大人の気づき、大人自身が地域を誇りに思う、こういうことはさらに広報していく必要があると思います。今回のレポートに大人の気づきの部分を入れておりませんので、地域で子どもをいかに育てていくか、そういう思いを大人自身がしっかり持って子ども達に向き合っていくことが大事だと思います。

池田市長

この塩から子育て事業が、多くの方々の力をお借りして、良い方向へ進んでいるという実感を各委員の方々が持たれており、これを継続して続けるべきであるというご意見を賜ったように思います。また、続ける中で今後、新見市の中の子どもだけでなく、市外の子どもとの交流にもさらに発展できれば良いということで、今、「子ども農村漁村交流プロジェクト」というものがあったりしますが、そういった受け入れをすることによって、新見市の子ども達と市外の子ども達の交流、そして、それぞれの地域で自分たちの地域資源の良さを活かしていただいて、活性化にも繋がっていくのではないかと考えているところです。今、順調に進んでいく中で、しっかりと市民の皆様を知っていただくということが重要なことであろうと思っています。まちづくりの中心になるのは、ベースにそれぞれの人が誇りに思うものをきちっと持っている事が非常に重要であると実感をしました。子どもが誇りに思うもの、大人の方が今まで気付かなかったものを気付く、こういうこともご意見を賜っておりますので、今後も皆様からいただいたご意見を参考に、関係機関と調整をしながら、地域資源や人材を活かした新見らしい教育に取り組んでまいりたいと考えております。

4 閉 会